

「会員短信1」

「出会い是一枚の葉書から」 小笠原満喜恵

私が滑稽俳句を始めるきっかけとなったのは、愛媛新聞が発行していた『アクリート』という月刊誌です。八木健会長が選者の川柳欄があり、そこに初めて投句した「ぬかりない私の髪の毛にぬかり」という句が思いがけず入選！ アートをつけていただいて誌面に大きく掲載されました。ほどなくして八木会長が松山市内で俳句の講座をされていることを知り、参加するようになりました。もともとは川柳を楽しんでいたのですが、俳句でもクスッと笑うことが出来、褒めていただいたことがきっかけで俳句も詠むようになりました。

三年前、愛媛で開催された「新老人の会」の大会では「歯が立たぬ入歯じゃ柿とにらめっこ」の句で、日野原重明賞をいただきました。選考理由は「あなたの作品は、超高齢社会で誰もが向かい合う現実を滑稽味溢れる表現で作品にされました。文芸が超高齢社会に生きる力を与え、一服の清涼剤となることを示されました」というものでした。受賞は、とても嬉しく夢のようでした。

滑稽俳句をつくるのは難しいのですが、面白くて元気の源となり明日への活力につながっています。思い切って出した一枚の投句葉書から、思いがけない出会い、ご縁をいただき、八十歳を過ぎても元気一杯の毎日です。